小学校高学年における教科担任制の充実

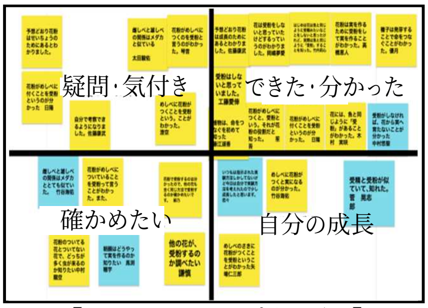
中核校	登別市立幌別小学校	指定校	登別市立幌別東小学校 登別市立幌別中学校

■　実践前の状況

・仮説検証型の授業において、児童が課題解決に向けて自分の考えをもって主体的に活動を進めたり考えを深めたりすることが不得手であった。
・指導する教科や内容が増え、特に高学年の学級担任は授業準備等が増大し、教材研究を進める時間の確保が難しくなってきた。

■　実践の概要

○　ICT のよさを生かした効果的な学習活動
・授業の導入で Google フォームを用いて前時の内容を児童が確認できるよう「５問チェック」を行った。指導者は既習内容の理解度や学習状況を把握し、定着度の確認をする一方、児童は、自己点検をすることにより、学習への意欲を高めていた。
・Jamboard では、付箋を張り付ける場所を内容から分けることで、視覚的に自他の考え方の異同を明確にし、それらを結び付けることで、思考を広げたり深めたりすることができた。



【Jamboard による振り返り】

○　科学的思考力を育む話合い活動
・児童の実態から話合い活動を授業に位置付け、科学的思考力の育成に理科の学習からアプローチした。
・ワークシートを活用し、児童は自分の考えを明確にしながら実験、観察・記録等を行い、その結果について、話合いを通じて自己の考えの正誤や修正、補完などをして、課題解決へとつなげられるようにした。

【ワークシートを活用した話合い】

■　実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕
・教科の特性を生かして児童が思考を練り上げまとめるまでの学習活動を位置付けるとともに、学習を重ねた児童の変化を客観的に把握できるよう検証方法（アンケート、５問チェック等）を明らかにして授業の充実と改善に努めるようにした。
・期首、期末面談や日常的な授業参観から、専科指導による授業や実践のよさ、理科室の環境整備等を全教職員に周知することで意欲向上を図るとともに、導入の工夫、話合い活動の学び方の変化、振り返りの工夫と成果、ICT の活用等を学校全体に波及できるよう学校経営の戦略と連動させた。

〔専科教員の取組〕
・校内研修と関連付け、理科の学習における「問題解決力」を学年ごとに明らかにし、「比較、関係付け、条件の制御、多面的な見方（推論）」をキーワードに話合い活動の充実に取り組んだ。
・各学年・学級担任との連携を密に授業を進め、学校力向上総合実践事業の地域協議会（第２回）で授業を広く公開し、科学的に探究する学習指導の充実に取り組んだ。

■　成果（○）と今後の課題（●）

○　理科の授業評価において、「理科の授業は楽しい」と回答する児童が 98.4%（第４学年以上平均）、「理科の授業は分かりやすい」と回答する児童が 97.4%（第４学年以上平均）という結果から、専科教員による指導が児童の意欲や主体的な学びを高めている。
○　予想、結果、考察で構成されたワークシートやタブレット端末を活用しながら、児童が自分で考え友だちと一緒にまとめるという一連の思考過程を活動として重ねることで、思考力と表現力を一体とする学びが身に付いてきた。
●　第２回地域協議会では、市内の全ての中学校理科教員の参加を得て、小学校の授業を介して協議することができたが、科学的思考力の育成と小中学校間の接続、理科の見方・考え方の育成、ICT の効果的な活用等について、更に実践を深め、互いに還元できる仕組みをつくる必要がある。